

経営比較分析表（平成29年度決算）

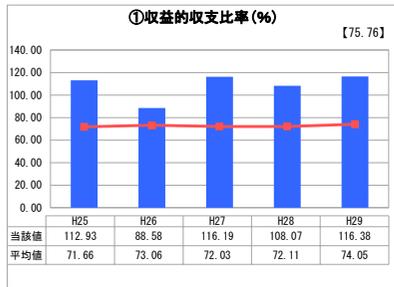
岐阜県 瑞穂市神戸水道組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金 (円)	
-	該当数値なし	0.79	1,890	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
585	0.43	1,360.47

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



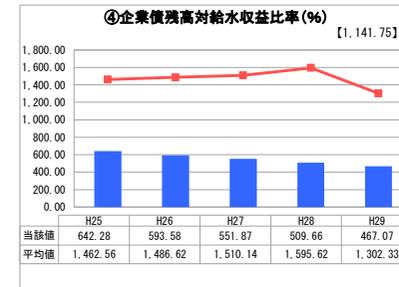
「単年度の収支」



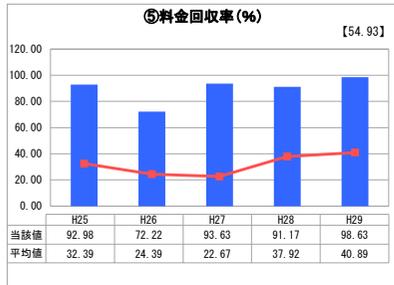
「累積欠損」



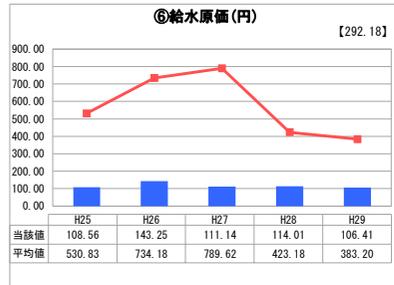
「支払能力」



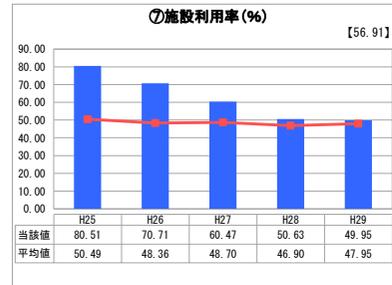
「債務残高」



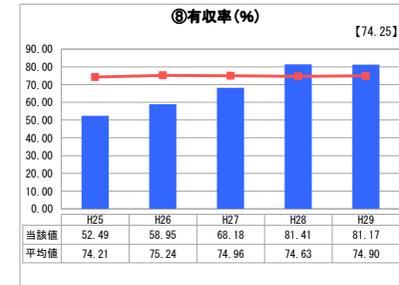
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

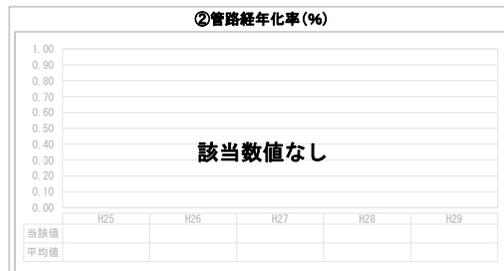


「供給した配水量の効率性」

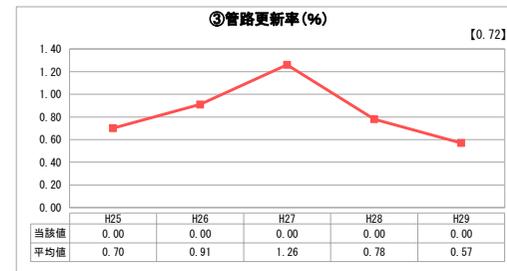
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「収益的収支比率」は、100%以上であり収支は黒字になっています。今後見込まれる更新投資等に充てる財源の確保を一層進める必要があります。

「④企業債残高対給水収益比率」は、類似団体に比べ低い水準にありますが、今後水道施設の更新などにより企業債などの増加が見込まれるため、給水収益と企業債残高のバランスに留意する必要があります。

「⑥給水原価」は、井戸水による自己水であるため低く抑えられており、「⑤料金回収率」は全国平均を大きく上回っています。引き続き安定した給水事業を維持していくための更なる財源確保が求められます。

「⑦施設利用率」は、給水人口の減少などの影響により全国平均を下回っています。将来人口に鑑み、施設の老朽化に伴う水源地等の更新時には、施設規模を見直す必要があります。

「⑧有収率」は、類似団体に比べ若干高くなっていますが、漏水調査、老朽管の更新、修繕などを継続し、有収率向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

平成6、7年の下水道整備に併せて管路の更新を実施しており、施工後20年を経過しています。現在は管路の耐用年数に達していませんが、今後は耐震化を踏まえた管路更新を計画的に実施する必要があります。

全体総括

給水区域内人口の減少などにより、料金収入が減少し、管路の老朽に伴う更新需要の増加が見込まれるなか、今後も引き続き組合単独で水道事業を維持していくには、水道料金や施設規模の大幅な見直しを実施するなどの取り組みが必要となるため、水道事業への統合を主軸として、経営基盤強化に向けた取り組みを積極的に進めます。平成30年度末をもって組合を解散し、瑞穂市水道事業へ統合すべく事務を推進しています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。